

「ベーシック・テスト」の効果的な使い方

— 「中学入試」、勝利の方程式 —

これは「中学入試」を志す、小学生へ向けての話です。

まず、「中学入試」の算数を得意科目にするために、基礎的な分野を固めて、入試のスタートラインに立つことです。

その為には、新小6生となる1月末までに「ベーシック・テスト 1」を合格することです。

(1) 「ベーシック・テスト」とは、？

- ① このテストは、「中学入試」によく出る全分野を11のブロックに分けました。
→ 内容の概略は、「ベーシック・テスト」の「点数記録表」の項目を参照。
- ② 更に、各「ベーシック・テスト」毎に、内容はほぼ同じながら、少しレベルの異なるA,B,Cの3段階のシリーズに分けた。
レベルは、 $A < B < C$ の順で、Cが一番難しくなっている。
- ③ A,B,C各シリーズ、1～7の各7セット、すなわち、3シリーズ×7セット=21冊の問題、解答用紙、解答、解説で、できている。
- ④ 無料サンプル、各シリーズA1,B1、C1を「トップページ」に置いているので、プリントアウトして、何点取れるか、生徒にやらせてみるとよい。11月～1月は「ベーシック・テスト 1」です。

(2) 「ベーシック・テスト」の使い方 その1

「基礎力マスターコース」

「ベーシック・テストの演習講座」を1月にスタートして、12月で終わらせるスケジュールです。これは家庭での演習を中心とした講座です。基本は、家庭学習のフォローです。

「受験カウンセラー」は、医者が処方せんを書くように、受験勉強のスケジュール管理を行っていきます。

指導の基本コース 個人別指導によるカウンセリング、週1回、30分が原則

→ 指導料を取るのも可。

- ① 算数が得意な生徒のパターン 合格点：80点

各シリーズを1～2回で通過。

このタイプは、処理が速く、正確であるので、時間に余裕がある。

最難関中学を狙うタイプである。

できるだけ早く、「ベーシック・テスト 11」までの合格を目指す。

「ベーシック・テスト」と並行して、「標準テスト」をやっていくとよい。

② 普通の生徒のパターン 合格点：70点

各シリーズを3～5回で通過。

このタイプは、全てが平均的で、さほど時間に余裕がない。

大学の付属中学を狙うタイプである。

12月末までに「ベーシック・テスト 8」までの合格を目指す。

③ 算数が少し苦手な生徒のパターン 合格点：60点

各シリーズを7回やっていっても、なかなか合格できない。

このタイプは、処理が遅く、計算が不正確で、まったく時間に余裕がない。

どこを受験するのも厳しいタイプである。

12月末までに「ベーシック・テスト 5」までの合格を目指す。

ここまでの、「ベーシック・テスト」の基本的効果的な使い方であるが、強化対策として、「分野別1000」を併用して使っていくと、更に効果的である。

弱点分野に絞って、短期間、集中的な指導が効果的である。

(3) 「ベーシック・テスト」の使い方 その2

① 「ベーシック・テスト 点数記録表」に点数を記録する。

② 「ベーシック・テスト」の点数を見て、「教材一覧表」「ベーシック・テスト 対応表」を参考にしながら、短期間、集中的に力をつけたい分野を選ぶ。

③ 「分野別1000」の中から、必要分野の問題を選び、プリントアウトして、勉強する。

以上、全体を通して言えることだが、点数が上昇傾向のトレンドにあることを常に確認していくことが重要である。